

開催日及び場所			令和4年9月8日(木) 防災対策室1, 2			
委 員			関口 和正(弁護士) 中井 真人(公認会計士) 高山 展保(ジャーナリスト)			
審 議 対 象 期 間			令和 4年 4月 1日～令和 4年 6月30日			
審 議 対 象 案 件			契約数 239 件 うち、1者応札案件 52件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件			
抽 出 案 件			抽出案件 4件 うち、1者応札案件 3件 (抽出率 1.7%) (抽出率 5.8%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件 (抽出率 0%)			
抽 出 案 件 内 訳	工 事	一 般 競 争		該当なし		
		指 名 競 争	公 募 型 指 名 競 争		該当なし	
			工 事 希 望 型 競 争		該当なし	
			そ の 他 の 指 名 競 争		該当なし	
		随 意 契 約		該当なし		
	業 務	一 般 競 争		2 件 うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件		
		指 名 競 争	公 募 型 競 争		該当なし	
			簡 易 公 募 型 競 争		該当なし	
			そ の 他 の 指 名 競 争		該当なし	
		随 意 契 約	公募型プロポーザル		該当なし	
			簡易公募型プロポーザル		1 件 うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件	
			標準型プロポーザル		該当なし	
			そ の 他 の 随 意 契 約		該当なし	
	物品・ 役務等	一 般 競 争		該当なし		
		指 名 競 争		該当なし		
		随意契約(企画競争・公募)		1 件 うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件		
		随 意 契 約 (そ の 他)		該当なし		
	(特記事項)					

	意 見・質 問	回 答 等
委員 から の 意 見・ 質 問 そ れ に 対 す る 回 答 等	① 手賀沼農地防災事業 都部新田揚水機場送水路他実施設計業務 ●新たな施設で応札者が多くなるのは、既存の施設では、最初に造成した業者が有利となるのか、そう言うことが無いからなのか。 ●実施設計とはどのような設計か。 ●資料請求したのは何社か。 ●応札しなかった 4 社の理由は何か。	●一般的に既設の施設補修では設計に制約条件が生じるが、今回の設計は道路下への新規の施設整備であり、全く制約条件が無いのが魅力と考えられる。 ●設計には、構想、基本、実施の三段階があり、実施設計とは、数量や仮設等の詳細を決定し、工事の発注を行うための設計です。 ●22 社でそのうち競争参加資格があるのは 12 社です。 ●比較的早い時期での契約手続きであり、手持ち業務の状況により、技術者の空きが無かったため入札参加を見合わせたところと聴いています。
	② 釜無川国営施設機能保全事業 現場補償業務 ●落札率が高い理由は何か。 ●技術者は、現地に常駐しなくてはならないのか。 ●土地改良補償士の資格は必須なのか。 ●入札の資格要件を見ると、同等の能力を有するとあるが。 ●この資格を有している技術者は、各社大体確保しているのか。	●価格の積算基準や労務単価が公表されており、業務数量を明示しているため、高い精度で価格算定が可能です。 ●現地で地権者に補償内容等の交渉説明をする際に、計画どおりとはいかず、相手方との都合確認の連絡を取りながらの業務執行となるため、常駐としています。 ●土地改良事業の用地補償の経験と知識が必要なため、要件としています。 ●資格自体を持っていなくても、同等の経験年数や能力があれば良いこととしています。 ●補償コンサルタント系の業者は確保していますが、建設系コンサルタントはあまり確保していません。
	③ 令和 4 年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 農業水利施設の機能保全の手引き改定検討他業務 ●案件の 1 件目と落札者が同じ NTC コンサルタンツ(株)であるが、1 件目は 8 社が応札して、この案件は 1 社となった理由は何か。 ●手引きの初版は NTC コンサルタンツ(株)が作ったのか。 ●参加表明がなぜ、少ないのか。 ●簡易公募型プロポーザルと一般競争入札（総合評価落札型）と使い分ける基準は何か。	●委員会に諮りつつ、施設の長寿命化技術の手引きを改訂していく業務は、単に技術力だけではなく、ノウハウや慣れが必要なため、他者は入札参加を見合わせたものと思われます。 ●初版は職員が作成しています。 ●入札説明資料を入手したのは、10 社ですが、入札参加を見合わせた数社に聴き取りしたところ、公示時期が 1 月下旬であり、手持ち業務の完了の見通しが立っていないため、参加しなかったとのこと。 ●技術書を作るなどの業務の内容と性質によって、プロポーザル方式が馴染むと判断しました。

	意 見・質 問	回 答 等
	●簡易公募型プロポーザルが少なく、一般競争（総合評価落札型）の方が応募が多くなるのか。	●契約方式というより、業務内容を見て各社判断されています。
	④ 令和 4 年度 基幹水利施設保全管理対策 農業水利ストック情報データベースシステム運用保守及びクラウドサービス提供業務 一式 ●公募の結果として最初から 1 社になったのか。 ●この業者しか出来ないという理由は何か。 ●価格のベース金額が適正かどうかの判断は。 ●この業務が下請け等に流れている可能性はあるか。 ●開発はいつからで、今回までの経緯はどうか。	●そうです。事前公募を行った結果、参加意思確認書の提出があったのは 1 社でした。 ●システム障害発生時に迅速な対応が必要だからです。 ●参考見積を複数社より徴集し、それをベースとして価格の妥当性を判断しています。 ●可能性はあります。但し委託制限の 50%以内のルールと、再委託の際に発注者の承認を得ると言う条件付になっています。 ●平成 19 年度にシステム開発を開始し、平成 28 年度に大規模なシステム改修を実施し、令和 2 年度にクラウド化を実施しています。
委員会による意見の具申又は勧告の内容なし。 [これに対し部局長が講じた措置の内容]		

事務局：関東農政局総務部総務課

（注）公益社団法人等とは、公益社団法人又は公益財団法人（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 4 2 条第 1 項に規定する特例社団法人又は特例財団法人を含む。）をいう。